

公益信託高知市まちづくりファンドニュース

まちファン

27号

2016年10月31日



目次

2016年度 公益信託 高知市まちづくりファンド 公開審査会

書類審査

- 「学生まちづくり」コース P.2
- 「まちづくりはじめての一步」コース P.2

プレゼンテーション

- 「まちづくり一歩前へ」コース P.3

公開審査会を終えて P.5

運営委員の紹介 P.5



2015年度 公益信託 高知市まちづくりファンド 最終発表会

プレゼンテーション

- 「まちづくりはじめての一步」コース P.6
- 「まちづくり一歩前へ」コース P.6
- 最終発表会を終えて P.7
- 「公益信託高知市まちづくりファンド」とは P.8
- 今後のまちづくりファンド（予定） P.8

公益信託 高知市まちづくりファンド 2016年度 公開審査会

2016年7月24日（日）開催の公益信託「高知市まちづくりファンド2016年度公開審査会」には、応募団体、一般合わせて約46名が参加しました。

1 審査

事前の書類審査にて助成団体を選考し、公開審査会場で発表。

2 団体の活動紹介

助成対象となった団体による事業内容の説明。

■「まちづくりはじめの一步」コース結果（助成先3団体）

| | グループ名 | 申請額 (万円) | 助成額 (万円) |
|---|-----------------|-------------|-------------|
| 1 | 下知愛のふるさと農園 | 5 | 5 |
| 2 | 長宗我部ファンクラブ | 5 | 5 |
| 3 | 国際ジョン万大河ドラマ化推進会 | 5 | 4.9 |
| | 助成額合計 | 15 | 14.9 |

■「学生まちづくり」コース結果（助成先1団体）

| | グループ名 | 申請額 (万円) | 助成額 (万円) |
|---|-----------------------------|-------------|-------------|
| 1 | Kochi Leaders Program 実行委員会 | 5 | 5 |
| | 助成額合計 | 5 | 5 |

団体の活動紹介プレゼンテーション

A 「学生まちづくり」コース



GROUP 1 高知県の未来作る、地域防災リーダー育成プログラム Kochi Leaders Program 実行委員会

高知県の防災のために行動したいという思いからこの活動を立ち上げました。高知在住の大学生を「防災の知識を持った若者地域リーダー」に育成するためのプログラムです。東北合宿では、2泊3日で宮城県気仙沼市を訪れ、現地での語り部やNPOと交流。高知合宿では、防災に携わる方々や地域の消防団の方にお話をうかがい、高知の防災課題を考えます。南海トラフ大地震直後や復興期に、周りを支えることのできる人材を増やしたい。

B 「まちづくりはじめの一步」コース

GROUP 1 下知地区有志による五台山での市民農園

下知愛のふるさと農園



下知地区は海拔0メートルで海に隣接した市街地で、想定規模の地震が起きた場合、長期浸水の可能性があります。自治防災会活動の中で、災害が起きた場合、食糧が無くなる恐れがあると痛感。五台山地区の高台の土地を利用し、地域住民を励まし、復興・復旧を促進するための市民農園として運営します。

GROUP 2 浦戸城を中心とした浦戸・長浜地域の魅力発信事業

長宗我部ファンクラブ



県の指定史跡・浦戸城跡を中心とした長宗我部に関する史跡について広く発信、周知することで人の流れを作り出し、地域の活性化につなげたいと思います。具体的には、地域住民を巻き込んだ勉強会を開催。パンフレットを作成し、観光客を案内するタクシー会社や近隣の観光施設に配布します。

GROUP 3 ジョン万次郎の功績を高知市民に浸透させる運動

国際ジョン万大河ドラマ化推進会



ジョン万次郎は大いなる功績があるにもかかわらず、高知市ではあまり知られていません。明治初期に九反田にあった開成館でジョン万次郎が教授を務めていたことを取り上げ、開成館跡の史跡整備を働きかけます。また、イベントなどを行いジョン万次郎の高知市での知名度を向上させる運動を行います。

C 「まちづくり一歩前へ」コース

- 1 プレゼンテーション 2 一次判断 3 質疑 4 最終判断
助成事業・金額の決定



各応募団体が事業内容を3分以内でプレゼンテーションした後、5分以内で質疑応答



各運営委員が、各応募事業について(a)(b)(c)の3段階の判断をする
※(a)(b)(c)については下表参照



一次判断で(b)(c)が多い事業への質疑応答



各運営委員が、助成対象として推薦する事業を選ぶ。結果、過半数(5票以上)の推薦を得た事業が助成先に決定

| グループ名 | 一次判断 | | | 最終判断 | | |
|-------------------------|----------------------------------|--|---|----------------|---------|---------|
| | (a) 活動企画内容を支持し、今回のサポート助成が必要だと考える | (b) 活動内容についても少し話を聞き、今回のサポート助成が必要か判断したい | (c) 社会的に意義がある活動だが、サポートの助成趣旨にはなじみにくいと考える | 今回の助成対象として推薦する | 助成額(万円) | 助成額(万円) |
| 1 高知駅北サイト「栄える」TOWN実行委員会 | ■■■■■■■■(8) | | | ●●●●●●●●(8) | 30 | 30 |
| 2 特定非営利活動法人井戸端わもん | ■■(2) | ■■■■■■■■(6) | | ●●●●●●●(7) | 18 | 18 |
| 3 大津子ども会連合会 | ■■■■■■■■(7) | | ■(1) | ●●●●●●●(7) | 30 | 30 |
| 4 高知県環境教育研究会 | | ■■■■■■■■(6) | ■■(2) | ●(1) | 30 | - |
| 5 高知地域猫の会 | ■■■■■■■■(5) | ■■■(3) | | ●●●●●●●(7) | 30 | 30 |
| 6 シアター TACOGURA | ■■■■■■■■(6) | ■■(2) | | ●●●●●●●●(8) | 30 | 30 |
| 助成額合計 | | | | | | 138 |

プレゼンテーション

※団体名上段の事業名末尾マーク ☆…1つは助成1年目、3つは助成3年目

GROUP 1 新旧が融合し、元気に彩り「栄える」まちづくり ☆☆☆ 高知駅北サイト「栄える」TOWN 実行委員会



高知駅も新しくなり、北側が区画整理事業にともないコミュニティーが崩壊しつつあったところで、もう一度盛り上がりをもせたいということで、定期的なイベントを開催して地域住民が交流し、親睦を深める取り組みをしています。軸になっているのは、3世代交流。子どもから大人、おじいちゃん・おばあちゃんが皆さん参加して取り組んでいます。今年はフリーマーケットを考えています。こういったイベントを開催していく中で町内の防災組織など他団体との連携を強めていきたいと思っています。また、今年はウォーキングイベントも開催したいと計画しています。

GROUP 2 まちのしゃべり場「こころの温泉・井戸端わもん」 ☆ 特定非営利活動法人 井戸端わもん



2011年の12月から、高知市を中心に聞き合える場、「こころの温泉・井戸端わもん」を週1~2回のペースで開催。2014年からは東北に活動の拠点を移し、集会場で被災された方のお話を聞くお茶飲み場を開催しました。今年のNPO設立後は活動を全国で展開し、発祥の地、高知でも活動をしっかりと続けていきたいということで、このファンに応募させていただきました。わもん、というのは話を聞くの「話聞」と書いた文字を当てております。「ただただ寄り添って話を最後まで聞く」ことで、日常の不安や悩みが和らぐことがこれまでの活動を通じて確信しています。

GROUP
3

若者たちの活動を通して繋ぐ地域の輪。 ☆☆☆

大津子ども会連合会



公益社団法人全国子ども会連合会の活動理念を基に、地域子ども会という活動を通して若者を育てていこうということで活動を始めてきました。子ども同士が切磋琢磨する集団をつくって、お互いが学び合う環境をつくることに、重きを置いています。いよいよ3年目に入り、まとめの学習として、2年間の経過の成果として年度当初にフォーラムをし、みんなでその意識のまま1年間をやってみよう計画しています。私たちがまちづくりへ参加する。そして、日々の活動そのものでまちという意識が育っていくと信じていますので、日常活動を大切に活動を進めております。

GROUP
4

市民が持ち寄り、創り上げていく音楽の力。

高知県環境教育研究会



高知県にも環境教育の組織的な団体が必要ということで発足して20年を過ぎております。野外活動や学校との研修など他方面にわたってやってきました。環境活動のみならず、災害の備えとして事前復興の観点からも、「歌」の力を活用する取り組みです。「歌」を通して、初対面の人々とも絆を作ることができます。随時コンサートを開催し、日本の心「童謡」を中心に唱歌、ジャズ、ポップス等々の日常化をはかる中で、「明るく、楽しく、元気よく」といった市民生活の活性化につなげたいと思います。まずは「場をつくる」。その場が、音楽を通して笑顔で集まる、集うことです。

GROUP
5

人と猫が共生できる街づくり～地域猫活動～ ☆

高知地域猫の会



増えすぎた野良猫によって引き起こされるトラブルの解決方法として、地域猫活動に取り組む自治体が増えています。地域住民自らが猫を減らしていく活動です。責任を負うべきは猫を捨てた人ですが、特定できない以上、社会全体で担う必要があります。地域住民が虚勢・不妊手術、猫用トイレの設置・管理、餌場の管理、周辺の清掃、広報と報告といったようなことを行います。高知市が今年の4月から着手したことから、私たちボランティアも地域猫セミナー高知を開催し、地域猫活動という解決策を市民に広め、地域住民の活動を後押ししていきたいと考えています。

GROUP
6

アート×地域。まつり・キャンプ・減災プログラム ☆

シアター TACOGURA



私たちは地域の文化芸術集団として、下知地域の課題「防災減災のまちづくり」「若い世代への訴求力の弱さ」に取り組んでいます。1年目は、われわれが主体となって地域力を再蘇生していきたいということで、祭りを柱にします。また、われわれの認知と信頼を上げるために子ども公演を頑張りたいと思っています。今回、申請をするにあたって「祭りというのは何だろう？」と考えたとき、地域力を上げることは減災につながるんじゃないかということのを再認識しました。私たち自身が地域住民であるという自覚を持ってプログラムを推進していきたいと思っています。

※団体名上段の事業名末尾マーク ☆…1つは助成1年目、3つは助成3年目



書類審査結果について総評



プレゼンテーション



プレゼンを受けての質疑応答



一次判断の後、再度質疑応答

二〇一六年度 公開審査会を終えて

運営委員長 増田 和剛（高知中学高等学校 教諭）

今回は「基礎をつくる」「養成する」という点において、非常に特徴が出ていたのではないかと思っています。「人づくりがまちづくり、地域づくり」とよく言われますが、そういう意味では、少し原点に戻った部分があるように感じています。学ぶことにより、地域の課題が見えてきて、その課題を地域の方たちが共有をしていく。そうすることによって「本当の課題は、何なんだろう？」ということを探求することにつながり、そこから、解決策を考えていくという流れが印象として残りました。

そして、私たち運営委員が非常に大事にしていることは、多くの団体が「頑張っていて、客観的に判断する視点をもって運営委員やその他の参加をしている方たちによって、課題が見つけれられることがあるということ。実はその課題が、その団体には見えていなかった課題なのかもしれないのです。そうして見つかった課題をその場で認識し、その内容を持ち帰って、団体の活動の中のソフトとしてインストールしてあげること、その団体の活動がより円滑な活動に変化するケースがあると思うのです。つまり、活動をやっているという熱い思いと同時に、客観的な視点というものを持っていただくことで、その活動がより大きく成長していくのではないかと考えています。

また、公益性という点で、高知市のまちづくりがどのようにかかわっていくことになるのかというところは永遠の課題です。けれども、このように課題を持って出てきている団体としては、この課題を1つでも解決していきたいところです。さらに、もっと大きな意味で捉えるならば、本当は行政が解決すべき

課題といえるでしょう。しかし行政では、どうしても細かいところまで手が届かない。そこで、皆さんのような熱い団体の方たちが働きかけることによって、行政の手が届かないところに手が届くようになる。これもまちづくりファンドの1つの特徴かなと思っています。つまり、このファンドで採択され、助成を受けた団体さんは、高知市のその先の先を手伝っていると言えます。あるいは、自分たちの活動によって、その地域の方たちが恩恵を受けることとなります。そのような意味で、公益性をより大事にしていきたいと思っています。「いかに人を巻き込むか」「いかに巻き込む仕掛けをつくるか」。これが、まちづくりの中では非常に大事なキーワードではないかなと思っています。

今回、「防災」という言葉がキーワードとして多く出てきました。高知、南海トラフ地震発生が近いということもあるとは思いますが、いかなる状況であっても、分かりやすいキーワード、人が集まってくるキーワード、これもプロジェクトの取り組みとしてはとても大事なことはないかなと思います。そこで、そのキーワードを基に、その地域へ還元していくことも大きな課題ではないかなと思っています。今回いろいろなテーマが出てきていますが、まちづくりを遂行していくために一過性のイベントに終わらせないようにしなければなりません。

今回助成されたことで、本当のスタートとなります。助成された団体は、この1年間の活動を通して1年、2年、3年後のビジョンを描いてみてください。そして、助成終了後卒業した後に自立ができることをいつも視野に入れながら活動を続けていただけたらと思います。

昨年より地域のまちづくり活動が回帰した様に思います。今回の助成団体9組の内5組です。その内2組が3回目の助成を受け卒業されます。卒業の団体は3回の活動を通して継続へのストーリーを描かれて活動されています。又以前卒業された広域活動団体が形を変えて地域との協同活動で助成されています。



副運営委員長
堀 洋子
（社）高知県建築士会

まちづくりに大切なことは、活動団体だけではなく、その団体と関わった地域の方がお互いに盛り上がりあっていくことではないかと思えます。人が環境を変え、環境が人を変えるといた相乗効果があってこそ、地域に根付いた活動といえるでしょう。そのためには、活動を継続する仕組み作りも併せて必要です。



運営委員長
増田 和剛
高知中学高等学校
教諭



運営委員
河津 健
高知大学人文学部

発表者の皆様、並びに、今回のファンドに関わった皆様、お疲れ様でした。今回も様々な素晴らしいプレゼンを見ることができて、本当に素晴らしいファンドになったと思います。申請された皆さんが、それぞれ最大の努力をして当日に臨んでいるのがひしひしと伝わり、その思いを感じられるのが緊張するのと同時に、本当に幸せなことだと思えます。また次回の発表会も心から楽しみにしています！

この度運営委員として審査を初体験して感心したことは、高知市のまちづくりに熱い想いを持たれた多数の市民の存在です。残念ながら今回選考の結果、惜しくも漏れてしまった団体が出ましたが、これまでの活動には高い評価が得られていました。ぜひ捲土重来をお待ちしています。



運営委員
片岡 照敏
社会福祉法人てくとこ会
自立訓練施設てくとこせと

今年は「傾聴」や「地域猫」「アートと地域づくり」など、ちょっとユニークな提案が印象的でした。多くの市民が感じている課題への取り組みに加え、まだ僅かな人しか気づいていない問題ややり方を提起し、先がけて取り組む活動を取り上げ支援することも、まちファンならではの大切な役割と思います。



運営委員
山中 雅子
NPO 法人アテラーノ旭

今回運営委員としてはじめて参加しました。数年前、「まちづくり拠点整備」コースで壇上で緊張しながらプレゼンをしたのが甦って来ました。応募された各団体の方々の熱い思いを聞き、又緊張しながら悩みながらシールを貼りました。そして色々な分野でまちづくりの活動がされているのだと改めて感動いたしました。

これまで応募したことはあっても、審査という立場は初めてです。プレゼンテーションするときの緊張感、短時間に要領よく説明する難しさ、活動への思いが強い分ついおろそかになる書類作りなど、よくわかります。それらの陰に隠れた皆様の熱い思いを、きちんと汲み取れる委員でありたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



運営委員
三谷 英子
学校法人三谷学園
RKC 調理製菓専門学校

毎回思うことですが、「沈着に判断していこう」と。ただ、人間は感情で動く。わたしは、この感情に流されやすい。お金の使い方など少々不備があっても、応募団体の熱いオモイに心奪われてしまう。でも、「まちづくり」って、これでいいのではないだろうか、これまた毎回、自問自答しています。

2016年度 公益信託高知市まちづくりファンド 運営委員の紹介

今年度より、新たに3名の運営委員が就任されました。



運営委員
石川 貴洋
認定特定非営利活動法人
環境の社こちろ 事務局長



運営委員
四宮 成晴
四宮計画事務所

公益信託 高知市まちづくりファンド 2015年度 最終発表会

2016年7月23日（土）開催の公益信託「高知市まちづくりファンド2015年度最終発表会」には、応募団体、一般合わせて約33名が参加しました。

1 プレゼンテーション

助成先団体が事業の報告を3分間にまとめて発表。それを聞きながら各事業について、良いところ・質問・提案などを付せんに入力。



2 意見交流

運営委員や参加者からの感想、または質疑に対し、助成先団体が応答。



B 「まちづくりはじめの一步」コース

GROUP 1

ホテルと人々が集う水辺と里の再生プロジェクト 行川ホテルクラブ



池の再生整備（池づくり）とホテル圃場の管理を実施しました。中間発表でのアドバイスを受け、行川学園の生徒さんがメダカの放流など一緒に取り組んでいただけることになりました。2月にはカワニナの採集・放流を。また、池の水質浄化に「石灰岩を入れると良い」ということで、石を入れました。6月8日にホテルの観察会を実施。池の周辺に少しホテルが飛んでいました。池の中にはアメンボウやオタマジャクシ、イモリ、その他水生昆虫が見えました。ホテルクラブのメンバーや行川学園にご協力いただき、地元の方の参加もあって、この事業が普及していることをご報告します。

voice...

- ホテルやいろんな生き物が見られるようになってきて、今後もそれが増えてきていると想像すると見に行きたくなりました。
- 自然の復活が進んでいても良いことをされていると思いました。これからも頑張ってください！

C 「まちづくり一歩前へ」コース

GROUP 1

こどもも大人もきてみいや

お城下ベース



助成をいただいて、のべ39回の活動を行い、スタッフも含めると300人以上の方が参加してくれています。夜のお茶会では、タウンモビリティステーションふくねこさんと連携して手話カフェを行うことができています。また、狂言師の茂山逸平さんにおいでいただき伝統芸能のお話をお聞きしました。ほかには、土佐てぬぐいを使ったよだれかけを作る活動や、おはなしお届け隊のおはなし会、いろいろな楽器を使った体験をする「音楽であそぼう」など。これからもこういう活動を続けていって、まちに来た人が安心してくつろげる空間づくりをしていきたいと思っています。

voice...

- 活動そのものもすばらしい、報告の仕方もわかりやすいし楽しく理解出来た。
- イベントの広がり、幅の広がりがうかがえました。
- いつも楽しい行事で参加してみたいと思いつつ……。おもしろそう!!

GROUP 2

新旧が融合し、元気に彩り「栄える」まちづくり 高知駅北サイト「栄える」TOWN実行委員会



お月見のタベ、クリスマスイベント、餅つきなどのイベントを開催、継続することで、地域の方々や町外の方々交流する場を提供。子供からお年寄りの方が参加し、親交型まちづくりに相乗効果がみられました。また、地域の消防団にも関わっていただき、住民の防災に対する意識も高まりつつあります。2月以降は、実行委員会メンバーの体調不良や転勤などの都合により、活動が縮小し組織力の弱さを感じました。今後は「継続」に重きをおいて無理のない活動を実施。イベントや体験型教室を継続し、親交型まちづくりの幅を広げられるように取り組んでいきます。

voice...

- 着実に活動が定着しているようです。すばらしい。
- 地域への活動の広がりがあり、今後も楽しみにしています。今後の活動への取り組み方向も考えていて良いですね。
- 企業さんにもアプローチしているのがよいです。どんなふうにも営業活動？

GROUP 3

地域の共助の力を高め、介護予防につなげる さくら会



リハビリキッチン取り組みも2年目。昨年同様、月2回（第19回～38回）開催しました。体操、調理、食事の他に10品目シートの定着、新しく導入したりハビリキッチン手帳の学習、減塩の取り組みを行いました。講演会は歯科衛生士の川村智津さんによる「口腔ケアの健康チェック」、高知大学の宮野伊知郎先生による「血管と血圧の話」の2回開催。この事業を通して、皆で協力しながら事業をすることの楽しさ、充実感を学びました。この取り組みが他地域にも広まり、地域の共助力の高まりと介護予防の一助になるよう続けていきたいと思っています。

voice...

- 着実に活動を発展させ、活動内容の検証も行って進化しているのがすばらしい。
- 減塩の必要さ、又、食事のたのしみ集うたのしさ、多くの方に与えていることがわかりました。



今年の主な具体的なテーマとしましては、青年の組織の充実と発展と、年少指導者の養成というのを掲げてきましたが、年少指導者の養成という部分に難しさがありました。何とか学校のほうに働きかけをいたしました、時間的な問題がありうまくいきませんでした。青年組織の充実発展、他団体への参加、交流については、思う以上に増え、当初40人ぐらいの参加を予定していましたが、90人という喜ぶべき成果が出ました。今後の課題は、中学生、高校生との時間の共有。細かく活動していくことが意識を育てていくと思っております。

※事業内容変更による返戻金…227,966円

voice...

子どももこの地域から活動しな
関わっていく地域で、大人にな
ってても地域の事を大事に
していきたく、いろいろなこ
とを参考にしていただきた
い。



昨年7月に学生と江ノ口消防分団との協同企画で「江ノ口わくわく防災ひろば」を行い全児童200名中50名が参加。今年は100名の児童に加え、大人も40名近くの参加がありました。アルファステイツ旭駅前では、子ども防災隊が結成され、アドバイザーとして今年度の計画を作成中。朝倉まちづくりの会では事務局長の任を受け、組織の中核に若者が参画する体制が出来ました。今後の展望は、イベントでの関わりから日常の支援に展開していくことと、地元の若者、子どもたちを巻き込みより深い結合を図っていくことです。※一般社団法人化による事業終了のため返戻金…220,442円

voice...

■一般社団法人を取
ったのはすごいと思
います。

■地域の中にも活
動している人がい
るから、自分も活
動したい。地域に
対しては、手助け
したい。地域の中
にも、自分も活
動したい。地域に
対しては、手助け
したい。地域の中
にも、自分も活
動したい。地域に
対しては、手助け
したい。

二〇一五年度 最終発表会を終えて

運営委員長

増田

和剛 (高知中・高校学校教諭)



私がフアンドに関わってきた14年という時の中で、今回ほど、「まちづくり」とは何だろうという根本的な部分を考えさせられたことはありませんでした。

このフアンドは、助成団体に対しての助成ではなく、事業そのものに対しての助成であることを念頭に置きながら、プロジェクトに対する助成であるというところを確認させていただきました。プロジェクトが実際に進んでいくにあたって、そのプロジェクトを進めていく背景が非常に大事ではないかと感じました。どうしても、活動が中心になってきますが、今回は活動を広げていくための大事なポイントが報告されました。

活動を続けていくためのポイントの1つめに、広報の方法があげられます。これまでは「広報、なかなか難しいですよ」という話が多く聞かれる中で、大事な方法がメディアを通して広げるということでした。そして、今回の活動報告の中で、それぞれの団体がお互いに育っていくことも、一つの広報の手段だと感じました。お互いの団体が育つということにより、まちが元気になります。元気になったまちがあることにより、相乗効果が見られます。つまり、活動によって今必要な思考が循環をしていくのです。環境が人をつくり、人が環境をつくる仕組みを作り出すわけです。そこで思い至るのが子どもの「まちに帰ってきたい」という思いを育てるのは、まちの中でお互いがつながりあって様々な体験・経験をするために過ごす小学校までの時間ではないかという事です。小学校終了までに大人とのかかわりを持つ時間の成果は、10年、20年と時間を経た後に故郷に戻

てくるという形で実を結ぶ。この循環をつくる関係をつくっていかないと、「まち」の成長を見ることができないと思います。つまり、まちづくり活動は1年、2年という短い期間の単発的な話ではないのです。

活動を続けていくためのポイントの2つめは、「継続」。やはり継続させるためには、活動に参加をしている人のモチベーションも維持しないといけません。お互いが思っているだけでは温度差が生じます。その差違をなくすためには、目に見える視覚化が大事になります。「この先どうなっていくか」……文字でも形でも、何でもいいと思います。お互いが共有できる形を持てば温度差が減少し、継続が可能な状況が生まれてきます。継続させる思いを共有していくなかで、活動は成長していくでしょう。

最後に、このフアンドのあり方について、高知市がどうしても手が届かないところに、活動団体の皆さんたちが、問題意識をもって解決する活動をおこなっているのだということを添えたいと思います。日常生活の中には課題が山積しているわけですが、その山積課題に気付かない方は、「どうしてやってくれないんだ」という批判的な意見を抱いてしまうでしょう。しかし、活動団体の皆さんの思考の中に「思うんだったら、やってみようよ」という方がいて、まちづくりに積極的に参加をしているんだなど実感しました。背中を押しているところに手が届くような、まちになってくれることを願っています。このまちづくりフアンドを活用しながら高知市を元気にしていく。にぎわっている高知をつくっていくことが、将来の高知をつくる第一歩ではないかと思えます。

公益信託高知市まちづくりファンド

助成コース紹介

A：「学生まちづくり」コース

活動の第一歩を踏み出そうとしている、または、活動が定着していない学生団体の活動を支援します（構成員のうち3名以上が18歳以上の学生であること）。

助成金額 上限5万円

審査方法 書類審査で助成先を決定します（助成が決定した団体は、公開審査会で活動内容の紹介をしていただきます）。

B：「まちづくりはじめの一步」コース

活動の第一歩を踏み出そうとしている、または、活動が定着していない市民団体の活動を支援します。

助成金額 上限5万円

審査方法 書類審査で助成先を決定します（助成が決定した団体は、公開審査会で活動内容の紹介をしていただきます）。

C：「まちづくり一歩前へ」コース

市民団体が継続して行うまちづくり活動を支援します。

助成金額 上限30万円

審査方法 公開審査会において、活動の内容について発表をしていただき、公開審査で助成先を決定します。

D：「まちづくり拠点整備」コース

まちづくりの活動拠点を整備する事業を支援します。

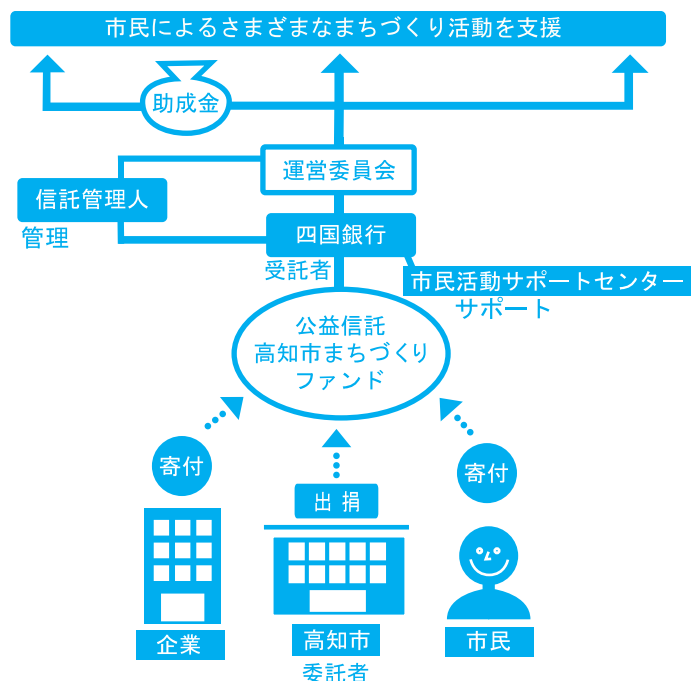
助成金額 上限100万円

審査方法 公開審査会において、活動の内容について発表をしていただき、公開審査で助成先を決定します。

お問い合わせ先

高知市市民活動サポートセンター TEL:088-820-1540

公益信託「高知市まちづくりファンド」は、「高知市民と行政のパートナーシップのまちづくり条例」に基づき、まちづくり活動団体への助成を目的に、2003（平成15）年、高知市が四国銀行に3,000万円を出捐（しゅつえん）して創設、また、2013（平成25）年、改めて3,000万円を追加出捐しました。助成先は公開審査会で決定し、透明性の確保とともに、市民同士の交流や、まちづくりの学びの場となることを目的としています。公益信託「高知市まちづくりファンド」の11年目となる2013年度からは制度を一新し、より利用しやすい助成金制度に変わりました。これからも多くの人にまちづくりに興味をもらい、まちづくりに参加するきっかけとなるような運営をめざしています。



高知市市民活動サポートセンター

市民活動の輪を広げようと、1999年4月に高知市が設置した施設です。運営を「認定特定非営利活動法人NPO高知市民会議」が担っており、ボランティアや市民活動に関する様々な相談や情報の提供、活動に必要な機器の利用や会議室の貸し出しにも応じています。仲間を広げたり、活動のお知らせをする掲示板や団体が利用できるメールボックスもあります。活動の参考になる講座等も開催していますので、お気軽にご活用ください。

まちづくりファンドは皆様がまちづくり活動を支援する仕組みです。

まちづくりファンドの創設にあたり、高知市から出捐（しゅつえん）された基金は、毎年取り崩しながら助成していくこととなります。少しでも永くまちづくりファンドが市民のまちづくり活動に活かされるように、多くの皆さまのご寄付をお願いします。

寄付に関するお問い合わせは、下記にご連絡ください。

株式会社 四国銀行
個人サポート部 信託担当
〒780-8605 高知市南はりまや町1丁目1-1
電話：088-871-2067（直通）

今後のまちづくりファンド(予定)

A「学生まちづくり」コース・B「まちづくりはじめの一步」

C「まちづくり一歩前」コース

| | |
|---------|---------------|
| 中間発表会 | 2017年1月22日（日） |
| 最終活動報告書 | 2017年7月7日（金） |
| 最終発表会 | 2017年7月29日（土） |

発行 高知市市民活動サポートセンター

〒780-0862 高知市鷹匠町2丁目1-43 高知市たかじょう庁舎2階
【TEL】088-820-1540 【FAX】088-820-1665
【E-mail】info@siminkaigi.com
【URL】http://www.kochi-saposen.net/